

調査ポイント

- 1 ヒガンバナ群生地
⇒善福寺川に面
- 2 東京都の貴重種「モミ」を観察
- 3 昔「関東タンポポ」の群生地だった場所
⇒森の明るい場所と暗い場所を比べてみる。
屋敷林跡地の面影が残る場所
- 4 チャの群生地
- 5 森で一番大きなケヤキ

観察の森の特徴概要

●植生調査時の調査区概要

調査区①：やや湿潤な立地の林縁部。クサギの実生木、ミズヒキ、エナシヒゴクサが優占する。

調査区②：刈り払いが行われた林縁部。低茎の草本が多く、マルバスマシが確認された。

調査区③：刈り払いが行われた林縁部。ヨメナ属の一種が確認された。

調査区④：種数の少ない暗い常緑樹林内の典型的な植生で、ヤブラン、ナガバジャノヒゲが生育する。

調査区⑤：亜高木層が欠落したギャップ的な環境で、ムクノキ、ケヤキ、エノキなどの実生木が多く生育する。

調査区⑥：草本類の少ない暗い常緑樹林内の典型的な植生であるが、ウラシマソウが生育する。

調査区⑦：落葉樹下でやや明るく、キランソウ属の一種が散生する。

調査区⑧：屋敷林跡地であることがわかる植生。植栽由来のクマザサ、ツワブキが生育する。ササの優占により種数は少ない。

調査区⑨：刈り払いが行われたやや湿潤な林縁。コナスビが生育する。

調査区⑩：常緑樹林の林縁。サネカズラやナガバジャノヒゲが優占する。

【樹木】

●大木上位10本

順位	個体番号	樹種	幹周(cm)	位置
1	222	ケヤキ	300	A
2	54	ムクノキ	274	B
3	117	シラカシ	244	C
4	104	ミズキ	224	D
5	224	ケヤキ	222	E
6	160	スダジイ	219	F
7	67	エノキ	218	G
8	92	モミ	207	H
9	100	スダジイ	203	I
10	7	アカマツ	200	J

※塗りつぶしは屋敷林の特徴樹種



ケヤキ (A)



ムクノキ (B)



シラカシ (C)



ミズキ (D)



ケヤキ (E)



スダジイ (F)



エノキ (G)



モミ(左) (H)



スダジイ (I)



アカマツ (J)

●観察の森と特徴づける樹種

- ・貴重

モミH 大気汚染の影響が強い23区内では貴重な存在。植栽由来と思われる。

- ・屋敷林らしい樹種(ケヤキーシラカシ屋敷林)

ケヤキ (A、E)、シラカシ (C、K)、スダジイ (F、I)

- ・屋敷林らしい樹種(果樹や庭園樹)

カキノキ、ビワ、イチョウ、イロハモミジ、チャ

- ・武蔵野の面影の残す樹種

イヌシデ (O)、コナラ (P)

- ・川沿いの崖線地形に特徴的な種

ミズキ、エノキ、ムクノキ、ケヤキ

- ・遷移が進む樹林

シロダモ、シラカシ、アラカシ、アオキ等、常緑樹の増加→高木に育ったシロダモ (L)

ミズキ、イヌザクラN、コナラ等の陽樹の衰退→洞のあるミズキ (M)



高木に育つシロダモ (L)



空洞となったミズキの幹 (M)

- ・逸出種の増加

トウネズミモチ、シュロ類

- ・変わった大木の根株



根が露出したアラカシ (Q)



ムクノキの板根 (B)



エノキ、シラカシ、エノキ (R)



ヒサカキ、ムクノキ (S)

【草本】

武蔵野台地で見られるような野草と植栽由来の野草が生育する。林内の草本類はヤブラン、ナガバジャノヒゲ、ヒヨドリジョウゴ、ヤブミョウガ等が点在する程度で少ない。

●武蔵野の面影を残す野草

林縁やギャップにマルバスミレやヨメナ、キランソウ等、林内にウラシマソウやヤマホトトギス等の野草が生育するが個体数は少ない。



マルバスミレ



タチツボスミレ



キラソウ



ウラシマソウ



ヤマホトトギス



ヨメナ



ヤマイタチシダ



ヒメカンスゲ

●植栽由来の草花、ササ

ツワブキやクマザサ等、庭園に植栽されるような種がみられる。



ツワブキ



クマザサ



ノシラン



ヒガンバナ

●外来種

外来種では特定外来生物のアレチウリが東側隣地より侵入し始めていた。また、要注意外来生物のオオブタクサもわずかに確認された。

【動物】

哺乳類ではタヌキの溜め糞を確認したが、ほとんど利用されない。鳥類では、10月にオオタカが飛来し、ムクノキの実を食べに集団で集まったドバトを捕獲していた。爬虫類では2mのアオダイシヨウと、都の絶滅危惧Ⅱ類となっているニホンヤモリを確認した。昆虫類はセミやハチ類など140種程度確認した。クマザサやクサギ、チャの茂みで昆虫類が多く確認された。

●哺乳類



溜め糞に集まるセンチコガネ



タヌキが噛みちぎった樹木ナンバーテープ

●爬虫類



都の準絶滅危惧のアオダイシヨウの抜け殻

●鳥類

シジュウカラ、コゲラ、メジロ、ヒヨドリ、ムクドリ、キジバト、ドバト、ハシブトガラスなどがよく見られる。10月はムクノキの果実が実り、ドバトの集団が頻繁に訪れるようになった。そのドバトを狩るオオタカがみられた。No.85のスダジイに径40cm程度の鳥の巣があるが、枝が混んだ場所にあることやハンガーが使用されているので、カラスの巣と判断した。



オオタカに捕食されたドバト



オオタカの古巣ではなくカラスの巣 (B)

昆虫類

8月はチョウやガ、セミ類が多く確認された。外来種のチョウであるアカボシゴマダラがエノキに産卵していた。また、9月はトンボ類やコオロギ類も多く確認された。甲虫類は少なく、特にゴミムシ等の地上徘徊性昆虫は確認されなかったが、枯木でミツノゴミムシダマシを確認した。

クサギ、チャ、クマザサが繁茂している藪があるが (C、D、E)、ガ類やクモ類が多く生息しており、林床植物が少ない樹林に生息する昆虫類にとっては重要な茂みである。



都の絶滅危惧Ⅱ類のオオミズアオ



エノキに産卵するアカボシゴマダラ



ミツノゴミムシダマシ



オオアオイトトンボ